

## ”絶対忘れないわたしの6日間“

木村 葉月

わたしは今回の派遣について、学校からの手紙で初めて知りました。その時、私は英語と料理についてとても関心を持っていたので、「自分の英語だと現地の人にどれくらい通じるのかな？グアムの食の文化って日本と何が違うんだろう？」とたくさんの興味を持って応募したのが、私にとってかけがえのない思い出の始まりでした。

朝の出発のバスでは、不安と興奮と、体調がイマイチで、グアムの空港まで神経がピリピリしている状態でした。グアムに着いたら早くホストブラザーに会いたいという気持ちが高まり、出迎えに来てくれたホストブラザーのポール(通称PJ)がオレンジ色の華やかなレイをかけてくれたときは、会えて嬉しいという気持ちで一杯でした。最初は話し始める勇気がなく、なかなか会話ができなかったけど、PJも私の英語に一生懸命耳を傾けてくれて、すぐみんなとも仲良くなれました。恋人岬に行って太陽が反射し光り輝く大きな海を目の前にし、「グアムって素晴らしい！」と思いました。

ウェルカムパーティーでも、たくさんの人が声をかけてくれて「すごくフレンドリーでやさしい人ばかりだな。」とつくづく思いました。PJのお父さんとお母さんも、私にわかりやすいように大きな声でゆっくり話してくれる気遣いもありがたかったです。セント・フランシス・スクールの授業は、もちろん全部英語。英語がそこらじゅうに飛び交っているので、目が回ってしまうような思いもありました。でも、学校の人たちはもちろん先生方も優しく話しかけてくれて、私が言えたのは簡単な英語だけど、通じ合える度に英語の不安は喜びになっていくような気がしました。

クラスの雰囲気が、みんな積極的に発言し日本にはないような程良いにぎやかさが、本当に好きでした。PJはすごいスポーツ少年で、放課後ラグビーチームに私も入れてくれて2点取ることが出来ました。チャモロ・ビレッジではチャモロ料理のレッドライスや大きなチキンを食べ、水牛に乗り、学校の友達とも思う存分遊びました。日本に帰るとき空港でホストファミリーが来てくれ、本当に良くしてもらったこの6日間の小さな笑えるジョーク、美しい景色、みんなの笑顔が次々に思い返され、涙がとまらなかったけど、最後は笑顔で挨拶できて良かった!!PJもその家族の方も優しく接してくれて本当にありがとう!!

私は今回のステイで、現地の食の文化や自分の英語力以外にも、「人って言葉だけじゃなくて気持ちで通じ合えるんだな。」と学びました。このような素晴らしい体験が出来たことを、KIRA の方々や家族には本当に感謝しています。そしてこれからは今まで好きな英語をもっと学び世界のたくさんの文化にふれ、いつかまたグアムに行って英語でたくさん話してみたいです。私はこの素晴らしい6日間をスタートにします!!ありがとうございました!!